

## 第3節 新市の土地利用構想

### 1. 土地利用にかかわる現状と課題

#### (1) 自然資源・観光資源など

住民アンケート調査では、各町において誇りに思うこととして「山林、河川、田園風景などの自然環境」がおよそ7割を占めて最も多い回答でした。また、自然環境に対する満足度についても最も高い結果でした。

実際、合併して誕生する新市においては、森林が9割弱、耕地が4.7%となり、美山川や大堰川などの河川が清らかに流れているなど、市域が豊かな自然に育まれながら形成されていることが分かります。

さらに、産業構造に関しても農業の占める比重が高く、当地域で生産される京野菜は、多くの人々によってブランド力のあるものとして認められるほど付加価値が高い生産物です。

また、スプリングスひよしや府民の森ひよし、かやぶき民家群、るり溪、農村環境公園氷室の郷、美山町自然文化村、ゴルフ場、パラグライダー練習場、観光農園や果樹園など自然資源を活用した観光・レクリエーション資源が域内に多く分布しています。

このように、自然資源やそれを活用した観光・レクリエーション資源が多くあり、その他、日本最古の天満宮である生身天満宮、木喰上人や十六羅漢像のある清源寺、文覚上人ゆかりの西光寺などの歴史文化にふれることのできる観光資源も分布しているという特徴があります。

ただし、これらの観光・レクリエーション資源は、市域内の各地に分布していますが、各地域における観光ルートを有機的に結びつけるネットワーク化は不十分な状況にあります。加えて、豊かな自然資源を維持・活用すると同時に、農村田園文化の継承による心温まる環境づくりも重要な課題です。

#### (2) 交通環境

京都市の近郊に位置する新市の交通環境については、北部を走る国道162号や府道綾部宮島線・京都広河原美山線、南部にはJR山陰本線、国道9号、国道477号、国道372号、京都縦貫自動車走っており、北部と南部の間は、府道園部平屋線などにより結ばれています。

南部には複数の国道やJR山陰本線が整備されており、京都市までは、今後、JR山陰本線京都・園部間の完全複線化も予定されていることから一層アクセスが向上します。一方、新市の各地域が連携し、総合力を発揮するためには、バイパストンネルの設置等、北部と南部をこれまで以上に強く結びつけるために府道京都日吉美山線、府道綾部美山線の交通体系の整備について関係機関に働きかけるとともに、市民相互の交流促進を図っていくことが求められます。

### (3) 都市機能など

新市には、京都医療技術短期大学、京都国際建築技術専門学校、京都伝統工芸専門学校、佛教大学園部キャンパス、公立南丹看護専門学校、明治鍼灸大学などの高等教育機関や、高度医療サービスを提供する公立南丹病院や明治鍼灸大学附属病院などが立地しており、学生が行き交うまち、高度医療を求める人が訪れるまちとしての特色があります。

一方、まちの顔となる中心市街地や駅前整備のほか、インターチェンジ付近における開発整備や新しい産業の創造など、都市の活性化を図るための環境づくりが不十分です。

このため、地域外の学生をはじめとした人たちが域内で過ごす時間は限定的となり、また、雇用確保が難しいことも要因となり、若者定住が促進されないことが課題となっています。住民アンケート調査でも「雇用の場」に対する不満が高かったというように雇用確保のためのまちづくりが必要といえます。

なお、新市においてこれらの都市機能等のすべてを準備していくことは効率的ではなく、京都市の都市機能による補完も念頭においてまちづくりを行っていくことが求められます。

これらの現状と課題をふまえ、大都市では味わうことのできない豊かな自然等の地域資源を生かした、新市の将来都市像を実現していくための土地利用構想が必要です。

## 2. 新市の土地利用構想

### (1) 基本方針

#### 市民の相互交流を促進する新市連携創造軸の形成

新市における各地域が有機的に連携し、市民文化の創造や都市活力の向上などに関して総合力を発揮するために、府道園部平屋線やＪＲ山陰本線、国道９号、国道４７７号などを中心に新市連携創造軸を形成し、これらへのアクセスの整備を進めます。

なお、市外に通じる新市連携創造軸は新市における各地域の連携とともに、次の広域連携軸の機能も果たすものとして位置づけます。

#### 地域資源の発信と都市間補完を支える広域連携軸の形成

新市における豊かな地域資源を市外の人々にアピールすることで交流人口の増大を図り、また、市外の地域による都市機能の補完に向けて、ＪＲ山陰本線や京都縦貫自動車道、国道９号・１６２号・３７２号・４７７号などを中心に広域連携軸を形成するとともに、将来、若狭と瀬戸内等を結ぶ高規格道路のアクセスの整備を進めます。

#### 定住促進と新市の総合的発展に向けた拠点・ゾーンの整備

大都市では味わうことのできない豊かな自然を保全する一方で、各種の機能が整備されたまちづくりにより、定住促進と新市の総合的発展をめざすため、新市の地域資源を生かした拠点やゾーンを整備します。

### (2) 拠点・ゾーン別の整備方針

#### 都市拠点・生活拠点

園部町の市街地を中心とする地域を、各地域の連携の中心地となる都市拠点として位置づけます。

また、ＪＲ八木駅・吉富駅を中心とする地域、ＪＲ日吉駅・胡麻駅を中心とする地域、美山町の宮島地区等を中心とする地域を、都市拠点と連携しながら各地域の生活文化や個性を豊かなものにする都市生活拠点として位置づけます。

都市拠点と都市生活拠点では、新市の顔となる地域として情報、行政、福祉、文化などの都市機能の充実を図り、それぞれの個性と生活文化により新市を総合的に発展させる役割を担います。

### 市街地ゾーン

他都市との交通の結節点となっており、都市機能が集積する園部町の都市拠点やJR八木駅を中心とする都市生活拠点などの地域を市街地ゾーンと位置づけます。

市街地ゾーンでは、さらなる商業機能の強化を図ることで都市としての魅力を高め、すべての市民がいつでも交流し合える環境づくりとして、公共施設等の既存の施設を活用した情報交流拠点やアクセスの充実を図ります。

また、現在整備中である京都新光悦村など、若者定住に向けた雇用の場の創出に努めます。

### 観光・レクリエーションゾーン

園部町のりい溪高原一帯、八木町の農村環境公園氷室の郷や清源寺を中心とする地域、日吉町のスプリングスひよしや日吉ダム、府民の森ひよしを中心とする地域、美山町のかやぶき民家群や大野ダム公園などを中心とする地域を、観光・レクリエーションゾーンとして位置づけます。

それぞれの観光・レクリエーション資源のネットワーク化を進め、交流人口の増大に向けた取り組みのほか、市民や市外の人々の健康増進に向けた取り組みを推進します。

### 森林共生ゾーン

新市が豊かな自然環境に育まれながら発展するために、美山町や日吉町の豊かな森林が覆う地域を、新市の基盤となる森林共生ゾーンとして位置づけます。

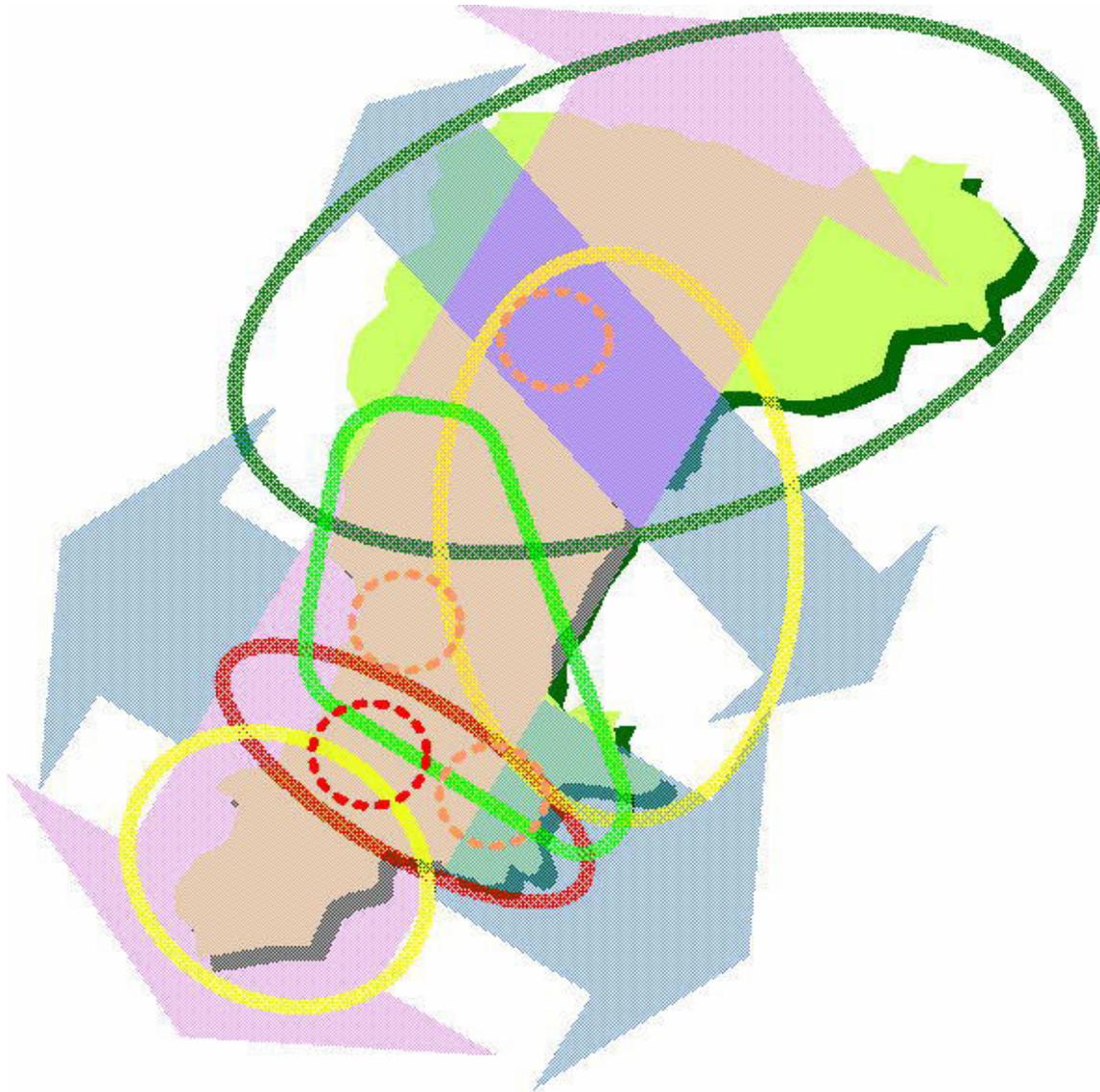
森林共生ゾーンでは、自然環境を生かしつつ、観光・レクリエーションゾーンなどとの連携方策についても検討します。

### 農業ゾーン

日吉町や美山町などに広がる田園地帯においては、農業を基盤とした土地利用の中で、田園文化の醸成や快適な田園生活ができる環境づくりを進めます。

また、京野菜の産地については、生産機能の強化に努め、その他、販路開拓機能の強化を図ります。

図表 4-1 土地利用構想イメージ



| 凡   | 例  |
|---|--|
|  新市連携創造軸 |  市街地ゾーン         |
|  広域連携軸   |  観光・レクリエーションゾーン |
|  都市拠点    |  森林共生ゾーン        |
|  都市生活拠点  |  農業ゾーン          |